

令和7年度 教育計画						学校番号 233	
愛南町立城辺中学校							
校長名	鉢 岩 俊 二	学級数	6 (2)	生徒数	117	教職員数	17



校訓 信和 清新 真剣

学校教育目標

自律・挑戦 ～対話をつないで～

目指す教師像

- 生徒に任せ、寄り添う教師
- 対話する教師
- 生徒に挑戦させる教師

目指す学校像

- 地域に貢献できる人材を育成する学校
- 地域とつながる学校

重点事項

- 確かな学力の定着と向上（授業改善）
- 後追い型の探究活動の場の設定
- 地域や人とつながる体験学習の充実

特別活動・総合的な学習の時間の充実

生徒の主体的な活動時間の確保

目指す生徒像

- 主体的に行動できる生徒
- 挑戦する生徒
- 自他を尊重できる生徒

【育てたい資質・能力】

対話力・提案力

学 校

学校運営協議会を生かした学校運営

信頼

生徒の生きる力の育成を支援

☆考えさせる場の確保 ☆挑戦できる風土づくり

連携

家 庭

- PTA 活動の充実
- 目標の共有、きめ細かい情報交換

地 域

- 人材提供（キャリア教育）
- ボランティア活動の推奨

重 点 目 標	1 確かな学力の定着と向上 (1) 生徒の主体的な活動時間を確保し、「分かる・考える・対話する」授業を実施する。 (2) 効果的にＩＣＴを活用し、一人一人に応じたきめ細かい指導を行う。 2 生徒指導の徹底と健全育成 (1) 「けじめ」があり「いじめ」のない学校づくりを進める。 (2) 対話を重視し、教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係づくりに努める。 3 教職員の資質と能力の向上と業務改善 (1) ＩＣＴの活用能力を高めるとともに、授業力の向上を目指して、研修の充実に努める。 (2) 学校のビジョンを明確にし、活動の目的を共有することで、働きがいを向上させる。 (3) 業務改善に向けてのアイデアを募り、実践していく。 4 道德教育の充実 (1) 対話を生かし、様々な思考ツールを活用することで、多様で効果的な指導方法を工夫する。 (2) 自律性、規範意識など豊かな人間性を持った生徒の育成に努める。 5 人権・同和教育の充実 (1) 人権尊重の理念を基盤に置き、計画的・系統的な人権・同和教育の推進に努める。 (2) 生活の中の不合理や矛盾、差別や偏見を見抜く力と解決していく力の育成に努める。 6 特別支援教育の推進 (1) 特別支援教育に対する理解を深め、校内就学指導体制の充実に努める。 (2) 合理的配慮を必要とする生徒の特性に応じたきめ細かな指導に努める。 7 健康教育の推進 (1) 運動に親しみ、進んで心身を鍛えようとする意欲や態度を育てる。(運動部活動の充実) (2) 生徒の体力や健康状態の的確な把握と、適切な体育活動の実施に努める。 8 安全・安心な学校づくりの推進、防災教育の推進 (1) 教職員の危機管理意識と適切な対応能力を高めるとともに、生徒の危険予知能力、危険回避能力を養う。 (2) 防災、防犯、交通安全等に関する実践的な研修や訓練を充実させる。
管 理 運 営	1 人的管理 (1) 教育公務員としてのサービスを厳正にし、体罰、わいせつ行為等の根絶を図る。 (2) 教職員の心理的安全性を高め、休暇が取りやすい環境づくりを進める。 (3) 教職員の交通安全意識を高め、交通違反・事故防止の根絶に努める。 2 物的管理 (1) 施設・設備の安全点検及び教材・教具の有効活用を図るとともに、事故防止に努める。 (2) 豊かな心を育てる教育環境の整備・充実に努める。 3 事務管理 (1) 公文書の管理の適正化を図るとともに、迅速で効率的な事務処理に努める。(校務支援システム「あいサポ」の活用) (2) 個人情報の保護と適切な管理を図る。(情報セキュリティポリシーの厳守) (3) 城辺共同学校事務室との連携を図る。
本 校 教 育 の 特 色	1 『対話』を重視した学校経営に努めるとともに、教育目標を体現する生徒を育てる。 2 縦割りブロックを生かした感動ある行事を通して、生徒同士の結びつきと学校の一体感を深める。 3 総合的な学習の時間における『地域学習』を中心に、地域とつながり、探究する時間を充実させる。 4 「愛さつ城辺」を推進し、生活習慣の基礎を培う。 5 学校運営協議会を充実させ、家庭・地域の協力を得て、開かれた学校づくりに努める。

令和7年度 愛南町立城辺中学校サポートルームの運用について

1 サポートルームの概要

- (1) 不登校生徒の学校（学級）復帰を目的とした取組を進める中で、不登校生徒にとって、サポートルームを学校内における安心できる場所、自分のペースに合わせて成長できる場所と位置付ける。
- (2) 個別学習やオンラインを活用した学習の支援を通して、学びが保証される場所、外部とのつながりを保てる場所と位置付ける。
- (3) 通室している生徒は、全て学級所属の生徒である。

2 生徒の活動と1日の流れ

- (1) 生徒は、自分が登校できる時間に通室する。また、滞在時間もその日の意欲や気持ちによって変更することが可能である。
- (2) 通室後は自分の意志で計画した自主学習や読書を行う。必要に応じて個別指導を行ったり、授業教室とリモートでつながって学習を行ったりする。
- (3) 一人一台端末を活用し、オンライン教材やドリル学習に取り組むことができる。
- (4) 必要に応じてソーシャルスキル活動（カードゲーム等）やスポーツ活動を行う。

<1日の流れ>

	サポートルーム担当者の動き	生徒の動き
朝	必要に応じて電話連絡・家庭訪問	
午前	○生徒の受け入れ（個に応じた受け入れ・時間設定） - 健康観察 ○出欠席黒板の記入（登校時間・下校時間） ○個別支援 - 学習支援（全教科の学習支援） - 教育相談 ○必要に応じて教室への付き添い ○清掃指導 ○生徒の見送り（個に応じた見送り）	登校 ○健康チェック ○本時の学習計画の作成 ○個別学習 （計画に沿って） ○振り返り ○清掃 （下校）
給食	サポートルームで給食支援（給食の受け取り、返却）	給食
午後	○生徒の受け入れ（個に応じた受け入れ・時間設定） - 健康観察 ○出欠席黒板の記入（登校時間・下校時間） ○個別支援 - 学習支援（全教科の学習支援） - 教育相談 ○必要に応じて教室への付き添い ○清掃指導 ○生徒の見送り（個に応じた見送り）	（登校） ○健康チェック ○本時の学習計画の作成 ○個別学習 （計画に沿って） ○振り返り ○清掃 （下校）
放課後	○生徒の受け入れ（個に応じた受け入れ・時間設定） （・必要に応じて部活動への付き添い） ○生徒の見送り（個に応じた見送り） ○学級担任との情報共有	（登校） ○本時の計画の作成 ○個別学習 （計画に沿って） - 下校
その他	○生徒指導部会への情報共有 ○必要に応じて校内ケース会議の実施 ○個別懇談	

3 配慮事項

(1) 環境整備

- ① サポートルームは普通教室から離れた場所に設置（他の生徒から見えないように配慮）
- ② 専用の出入り口や靴箱を用意
- ③ 自由に入退室できるよう入口を2か所に設置
- ④ 運動場が見える場所に配置（外からは見えないように配慮）
- ⑤ 個々の状況や目的に応じて活動できるようレイアウトの工夫
- ⑥ 支援しやすいレイアウトの工夫（パーソナルスペースの確保・パーティションの設置）

(2) 保護者との連携

- ① 活動記録の活用
- ② 学級担任との情報共有

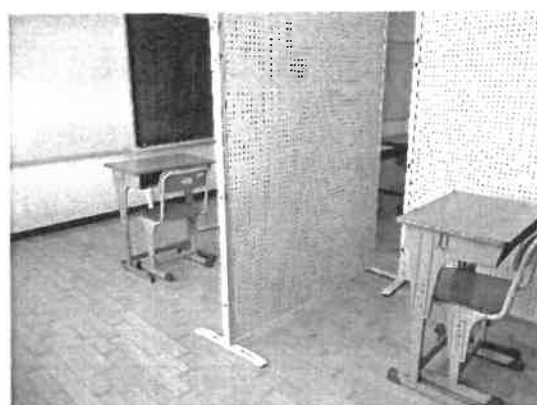
(3) 学級担任との連携

- ① あゆみの活用方法の模索
- ② 日々の出欠席（登下校時間）と活動内容の報告

4 サポートルーム整備状況（R7.4.3 現在）



【授業形式で学習活動が行える環境】



【個別学習スペースの設置】



【ソーシャルスキル活動の場】

	登校時間	下校時間	出欠記入	学習進捗	検査
1年生					
2年生					
3年生					

【生徒の利用状況の把握】